

日本のコーヒー消費について

1. 2017 年の状況

- (1) 2017 年のコーヒー消費量は対前年比 1.7%減の 464,686 トンとなった。
- (2) 消費減の要因としては、第一に総選挙の影響、第二にカフェイン中毒事故報道の影響が大きいとみている。

総選挙のあった 10 月のコーヒー消費量は対前年同月比 16.5%減で、2016 年 10 月の消費量 46,269 トンを 7,615 トン下回った。

2017 年 6 月 13 日のカフェイン中毒事故報道は、中毒の原因はエナジードリンクとカフェイン錠剤であるとしているが、カフェインの枕詞として「コーヒーに含まれるカフェイン」とするため、消費者に悪い影響を与えた、とみている。7 月のコーヒー消費量は対前年同月比 9%減となった。
- (3) 総務省選挙課の見解では、インスタントコーヒーのような安いものは問題ないと思うが、高級なコーヒーは公職選挙法で認められないかもしれない。公職選挙法で供給とみなされるか否かは、その場の状況、地域性等も判断され、最終的な判断は警察が行う、とのことであった。また、高級なコーヒーとは具体的にどのようなものは、警察の判断になり選挙課では判断できない、としている。本問題はコーヒー業界の大きな課題で、御当局には可能な限り文書で、どのような種類のどのような価格帯のコーヒーが供給にあたるのか、明示していただければありがたい。
- (4) 2017 年の消費量は、2016 年を 7,849 トン下回ったが、消費傾向で見ると増加基調の中での調整面とみている。

2. 2018 年 1 月のコーヒー消費の状況

- (1) 1 月のコーヒー消費量は対前年同月比 13.5%増の 36.975 トンであった。
- (2) 2018 年初の日並びが休暇を取得する傾向を高め、コーヒーの家庭内消費を促した可能性があるとみている。加えて、2018 年の大消費地東京の 1 月は例年より寒く（平均気温 4.7 度、1986 年以来の低温）、暖かいコーヒーが選択された可能性は高い。